



歯ブラシによるのど突き事故

●子どもの事故と歯ブラシ外傷

「不慮の事故」は15歳未満の子どもの死亡原因の第2位で、2018年には1年間に525人もの子どもが命を失いました。今年には新型コロナウイルスによる休園・休校・外出自粛があり、自宅で過ごす時間が長いため家庭内での事故が増えており、その中でも歯ブラシによるのど突き事故が増えています。どうしたら防げるか考えていきましょう。

●歯ブラシによる口腔内外傷

1〜3歳の子どもの多く起きています。歯ブラシ中に歩き回る・走る・遊んで転んだとき、踏み台からバランスを崩して転んだときなどに、口に入れていた歯ブラシの先がのどの奥を突いてしまいます。

☛このような事故が起きています！

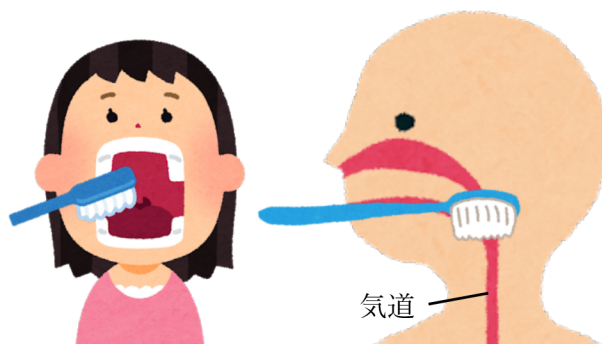
1歳4か月 女児
洗面台で踏み台の上で一人で歯みがきをしていたら、前向きに滑って転倒。

1歳8か月 男児
歯ブラシを咥えたまま室内の滑り台で遊んでいて転倒。

2歳4か月 男児
歯ブラシを咥えたまま父の背中に乗って、バランスを崩して転倒。

●歯ブラシ事故は危険です

のどには気道、血管、神経など大事な構造物があるので、歯ブラシなどが刺さると出血し、気道が傷をきっかけにむくむ（浮腫）と、気道が圧迫され呼吸困難になる場合もあります。また、歯ブラシには口の中のばい菌がたくさん付いているので、傷から感染を起こして膿むと手術が必要になる場合もあります。数週間入院しなくてはならないこともあります。



(麻酔 2016;65:356-358.)

●歯ブラシ以外にも「棒状のもの」を口の中に入れて遊ぶのは危険です

はし・フォーク、ストロー、アイスの棒、菓子（ポッキー、チュッパチャプス）、ペン、笛

● 歯ブラシ事故を防ぐためには

① のど突き防止の歯ブラシを使いましょう！



のどに刺さりにくい曲がる歯ブラシ

のどの奥に入りにくい歯ブラシ

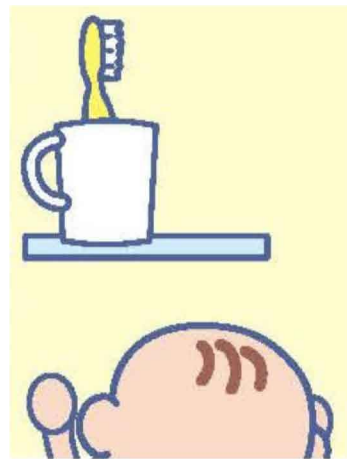


② 保護者が見守って床に座って歯みがきしましょう！

歩き回って転んだり、いすから転ぶと危険です。



③ 歯ブラシは子どもの手の届かない所に置きましょう！



* 曲がる歯ブラシでは磨き残しがあるので、8歳頃までは大人が柄の長い歯ブラシで仕上げ磨きをしてあげてください。

● 歯ブラシによる口腔内外傷に関する情報

| 日本小児歯科学会 | 東京消防庁 | 東京都生活文化局 |
|--|---|--|
|  |  |  |